

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年 3月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175400365
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう
事業所名	グループホーム ありがとう
所在地	北海道紋別郡遠軽町西町2丁目1番地218 (電話) 0158-42-8716

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年2月25日

## 【情報提供票より】(22年1月22日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 2 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	28 人
利用定員数計	17 人
常勤 7 人, 非常勤 21 人, 常勤換算 18.83 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造従来工法造り
	1 階建ての 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000~18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(1月22日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	遠軽厚生病院、遠軽学田病院、みずしま内科クリニック、アサヒ歯科クリニック
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は遠軽町西町地区の住宅地に位置し、近くには太陽の丘えんがる公園があり遠軽町のシンボル巖望岩を眺めることができます。昨年3月に隣接して2号館が開設され、各居間は広いスペースがとられ、四季に合わせた飾り付けがされ、開放感のある明るい雰囲気になっています。2号館の開設に伴い、理念に掲げている「安心して」「主人公」「楽しく」の言葉に込められた思いを再確認し、共有に努め、現場実践の向上に繋げています。又、管理者は職員の資質向上にも積極的に取り組み、外部の講師を招いた事業所内研修の機会を確保し、職員のスキルアップを図っています。常に利用者の生活を豊かにするため、気付きを得ながら職員全員が前向きに取り組んでいる姿勢が伺えます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年3月に交代した管理者は、昨年の外部評価票を確認し、改善点に挙げられた自己評価の活用、外部評価の共有、避難訓練の実施についてはミーティングの中で話し合い、改善に向け取り組みサービス向上に繋げています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価に対して積極的に事業所の現状を確認しながら全員で取り組み、改善や職員の力を引き出す機会としています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ユニットになって1回目の運営推進会議を昨年11月に開催しています。利用者・家族・市町村保健師・行政担当者・地域包括センター職員・近隣住民・民生委員等を構成員とし、事業所の現状について報告し、メンバーから意見・助言を得ています。又、議事録を作成し、家族にはお便りの中で会議内容を伝えています。会議を通してホームの質の確保・向上に繋げるとともに地域に開かれたホームを目指し、22年度は定期開催(2ヶ月に1回)が計画されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発行するお便り「ありがとう おたより」や誕生日には本人のお便りを作成し、郵送するとともに、家族の来訪時を大切な機会と捉え、何でも言って貰える関係づくりを心がけています。又、家族からは不安や困っていること等の話をよく聞いてくれるとの声も多く、家族へも細かい気配りがされています。意見箱を設置し、苦情・相談窓口については重要事項説明書に明示し伝えています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町の行事(千人踊り)には観客として参加するとともに、散歩時には挨拶や談話を積極的に交わすよう努めています。近隣住民の差し入れやホームの茶碗洗いを手伝ってくれたり、避難訓練には協力が得られる体制が整っており、気軽に訪れてくれる関係ができています。ボランティアの来訪も多く、利用者の楽しみとなっています。更に地域との相互交流に取り組む中で、地域に開かれたホームを目指しています。

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人生の質を高め、地域の中でその人らしく第二の我が家として安心して暮らして頂く事を目指し、『安心』『自由』『主人公』『楽しく』をキーワードにした独自の理念を作成しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念の大切さを認識し、職員と共有の為アンケートを実施し、ミーティング時に話し合い、今年度方針目標に理念の共有化を掲げ、理念に込められた思いの実行に努めています。管理者の名刺の裏には理念が印刷され、家族、外部の方にも理解して頂ける様に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度より町内会に加入しています。地域住民が茶碗洗いや、絵本の読み聞かせ等のボランティアに訪れたり、野菜の差し入れをしてくれたり、又、他ボランティアも多く訪問し交流されています。今後は、地域に貢献出来る事を目指した活動も行っていきたいと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を日々のケアの振り返りとサービス向上に活かす様に、ミーティングにて話し合い、職員全員で共有しています。自己評価、外部評価は玄関に置かれいつでも閲覧出来る様になっています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、町保健師、行政担当者、地域包括支援センター職員、近隣住民、民生委員等を構成員として、2ユニットになってから初めての運営推進会議を11月に開催しています。ホームの状況報告、意見交換等話し合わせ、今後、更なるホームの質の向上に活用すべく次年度の定期的開催を計画しています。	○	次年度からは、2ヵ月に一度の定期的開催を計画しています。定期的開催を実現と運営推進会議を活用しサービス向上に繋げて行くことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは、連絡を密に取り、相談、情報交換等連携に努め、サービス向上に反映しています。町主催の研修会にも参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りと金銭報告書を毎月送付し、誕生月には写真を載せた個人便りも添えています。家族訪問時には個人記録を見ながら説明に努め、家族の安心感に繋がっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情、相談窓口を説明し、重要事項説明書に明記しています。意見箱を設置していますが利用は無く、管理者、職員は家族の訪問時に何でも気軽に言って貰える関係作りを心掛け、意見、要望があった場合は、速やかに対応する様取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は少ない状況にあります。今年度ユニット増設の為、ホーム内での異動を余儀なくされた状況がありましたが、各ユニット職員間で協力しながら、利用者のダメージに配慮した対応を心掛けています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の資質向上の為、専門家を招き、自分達の不足の点を指摘して貰ったり、他グループホーム管理者による研修の実施等内部研修の充実を図り、グループホーム連絡協議会や、遠紋地区グループホームの研修会に積極的に参加し、スキルアップに努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、又、遠紋地区の同業者との研修会に職員が交替で参加し、交流に努めています。管理者は、近隣グループホームの運営推進委員として参加しています。	○	積極的に研修会、勉強会に参加しています。同業者との交流はお互いのサービスの質の向上に繋がります。管理者のみならず職員も更に交流を深めていく事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、管理者が自宅を訪ね、話を伺い要望や不安の把握に努め、体験入居の実施等時間をかけて納得した上での利用開始となっています。利用者不安には、家族、職員が協力し、早期に馴染める様取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者、職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接するように心掛け、信頼関係の構築に努め学びあい、支え合う関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員は日々の利用者との関わりの中で、思いや意向の把握に努めています。困難な場合には、表情や態度、家族に話を聞いたり等、意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にカンファレンスを行い、状況の把握と、課題について話し合い、職員で共有すると共に、家族の意向を取り入れ、サービス担当者会議を開催し、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にカンファレンス、モニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っています。状況に変化があった場合はその都度、見直しを行い、状況に応じた計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、理・美容支援、買い物等、利用者家族の状況や希望に応じ柔軟に支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医の支援をしています。家族と通院する時は、病状の情報を提供し、場合によっては、介護支援専門員が同行することもあります。ホームには4名の看護師が在籍し、利用者の健康管理に当たっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応に付いては、現在では、出来るだけホームでの対応が可能な所までとの方針を家族と話し合い共有しています。病状の変化はその都度報告に努め、利用者、家族の希望に沿いながら対応しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者職員は、利用者を人生の大先輩として尊厳を尊重した接し方を心掛けています。日常の何気ない言葉掛けも、拘束に繋がらないかと細心の注意を払いミーティングにて確認しています。個人情報保護についても同意書を交わし、個人記録の管理も配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望に沿い、買い物、散歩、起床時間、就寝時間等、可能な限り利用者本位の支援に取り組んでいます。管理者、職員は利用者の得意分野を大切に、充実した毎日が送れるように努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一つの食卓を囲み、職員と話をしながら食事を楽しみ、準備や後片付けも職員と共に行なっています。近くの公園で、取り寄せの弁当を楽しんだり、職員手作りの行事食やおやつも利用者の楽しみとなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週に2～3回は入浴出来るように支援しています。利用者の意向に沿い、毎日入浴したり、時間を考慮したりと柔軟に対応しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や、力を活かし、食器拭き、掃除、洗濯物たたみ等役割を担う場を提供しています。季節毎の行事(焼肉・運動会芋煮会等)も数多く行なわれ、利用者の誕生会は一人ひとり、誕生日当日に行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等日常的に外出の機会を持つ様努めています。冬期間も体調や、天候を考慮しながら外気浴に誘ったり、廊下で運動に取り組んでいます。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は日中鍵を掛ける事の弊害を理解しており、外出傾向のある利用者には、見守りや、声掛け、一緒に出掛ける等で安全確保に努めています。やむを得ない時は家族の了解を得て一時的に施錠する場合があります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署、地域住民の協力を得て、実施しています。心肺蘇生法の講習も実施されています。火災後の対応も含め定めたマニュアルを作成し、ミーティングで話し合い、職員それぞれの役割(駆けつけるときは毛布を持ってくる等)を確認しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を利用者の状態に合わせ、提供しています。食事量、水分量も記録が取られ、不足がちな場合には、好みの飲み物、ゼリー等工夫し、個人ケアに努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、十分なスペースを確保し、廊下、トイレ、玄関の清掃も係りを決め消毒清掃を一日2回行なっています。利用者が集うリビングには、季節の行事に合わせた飾り付けがされ、毎月利用者と職員で制作したカレンダーや観葉植物を飾る等家庭的な雰囲気となっています。1号館リビングのホワイトボードには今日の予定やクイズ等が書かれ、利用者の楽しみとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には寝具、家具等馴染みの物が持ち込まれ、写真や、利用者の作品が飾られ、その人らしく居心地良く過ごしている様子が伺えます。		